

# 健友

賀正



折り紙 龍

井上和昭 作

## いのちとくらしの安全を守りつづける

### 新春に語る

健友会 高津 司 理事長

聞き手 / 健友会 小林はるみ 看護部長



いのちをまもる 10・20 国民集会に参加した健友会職員と友の会のメンバー



2012年、新しい年を迎えました。去年は3・11東日本大震災からはじまり、波乱の1年でした。年頭に当たり、高津理事長から、法人の事業展開と医師の養成、医療・介護に奮闘する健友会のこれからを語っていただきました。

#### 一番困難な人の所へ まず駆けつける

小林 あけましておめでとうございませう。今日は新春インタビューにふさわしく、元気の出るお話をさせていただきたいと思えます。

高津 おめでどうございませう。よろしくお願ひします。

小林 ではまず、2011年を振り返っての感想からお願ひします。

高津 私たちは、大震災と原発事故で、いのちとくらしの安全を第一に考えた国づくりをしなくてはならないことを、あらためて思い知らされました。震災では、民医連はいち早く駆けつけて支援の活動をしました。健友会からも、医師をはじめめたとした多くの職員が向かいました。まずは一番困難な人たちの所に駆けつけるというのが、民医連の精神なのです。

その後の野田政権の施策はどれをとっても賛成できないものです。震災からの復興にも水を差すものです。医療や介護分野の政策も、国民が民主党への政権交代に期待したものと全く反対のものになっていきます。国民

の側では、原発・TPP、米軍基地移転問題など、かつてない運動の輪が広がっています。

#### 患者さんの大変さと 国の方針は違う

小林 今年は、診療所をどうするかがテーマになってくる年だと思います。まず、前提となる医療・介護をめぐる状況はどうなるのでしょうか。

高津 政府厚生労働省の医療介護政策には、2つの特徴があります。病

院については、急性期高度医療を行う大病院と慢性期医療中心の中小病院へと、2つの機能分担を徹底させようとしています。急性期病院に医療費を配分していくことが進められ、日本の地域医療の大きな部分を担っている中小病院への医療費はさらに削られ、運営が困難になっていくことが予想されます。

小林 入院日数もさらに短縮をねらっていますね。

高津 ええ。「病院での医療だと医療費が高騰する」ということで、病院での入院日数をさらに短縮し、自宅への退院を促進するもくろみです。退院した患者さんを地域、在宅で治療・介護する仕組みとして『地域包括ケア』が打ち出されています。(2面へ続く)



東日本大震災直後、すぐに駆けつけた第1次被災地支援チーム

## わたし

今年辰年。「飛龍乗雲」とは、優れた指導者はタリミングを逃さず勢いに乗って行動するとうたえです。どじょうが飛龍に変身する初夢はいかがですか▼東日本大震災は、美しい自然を、幸せな暮らしを一瞬にして奪い去りました。未曾有の天災にも人びとはくじけ

ませんでした。支援の輪が全国に広がり、人と人の絆はしっかりと結ばれました。良い国だなと感じました▼人災といわれる福島原発事故は、長年培われてきた「原発安全神話」をみじんに打ち砕きました。放射線の降るなか、命がけで救出や復旧作業に取り組んだ人が大勢います。日本人ってすごいと思いましたが▼何よりも優先されるべき復興が遅れに遅れているところへ、世界的経済危機が日本にもやってきました。政府は右にも左にも気を遣いながら、恐る恐る、声高に「増税しか道はない」と強調しますが、「不転換の決意で」の熱弁に信念も理想も伝わってきません。増税の先に希望の光が見えてきません▼新春(はる)だから、私達を取り巻く閉塞感を吹き飛ばしてほしい。「どじょう」だって、ふなっこだって、新春(はる)が来たなと思うべな (き)

# 新春に語る

(1面から続く)

この2つの方向を厚生労働省が考えており、今年4月の診療報酬改定でも強く出してくると思われ

病院から在宅へと広がる中で、診療所の役割をどう果たしていこうとお考えでしょうか。

私達は、患者さんの大変さは、貧困と格差社会の広がり・超高齢化社会への対応の遅れ・社会保障と医療費の削減によってもたらされていると考えています。その大変さをさらにひどくする厚生労働省の政策に対しては、反対していきます。

新築後の中野共立病院を軌道に乗せるために努力してきました。中野共立病院の役割は法人の診療所や介護施設をバックアップしていくことだと、繰り返し確認しながら進んできました。その点では一定の前進があったと思っています。

## 1 地域医療の拠点 1 病院9診療所

小林 そうい情勢では、「住み続けられるまちづくりの拠点としての診療所」の役割が、いっそう重要になると思

居宅の事業所などを持っています。治療や療養が



在宅患者さんと職員との日帰りバス旅行(福祉バスを利用)。笑顔がこぼれます(川島診療所主催、右が澤田所長)

にも安心していただきた

い。 小林 今年は江古田沼袋診療所の建設がありま

すね。 高津 健友会の診療所はそれぞれ歴史があっ

て、戦後のいろんな運動の中でできてきた診療所ばかりです。その診療所も建物も古くなったり、今の時代に求められる診療所活動に心えきれないような構造になっている所もいくつかあります。そういうところを順番に建て直していかなければなりません。

そのスタートとして江古田沼袋診療所の建設がありますので、まずそこを成功させたいと思っています。友の会の皆さんが集ってもらえるスペースを広くとるなど、工夫をしている最中です。

## 2 心と技術をもった 医師を

小林 友の会の方々と患者さんの声を聞くこと



運動会「フレーフレー紅組!」(中野共立病院通所リハビリテーション室にて)

すね。 高津 本当にそうです。いろいろ患者さんや地域の方々のお話を聞く

と、求められる医師の診療は、まずは「自分の体のことについて、すべて

のことでよく聞いてくれる」ということです。その上で、それぞれその診療所で対応できることや、他の医療機関に紹介して解決することなどの方向性を適切にアドバイスしてあげることが大切です。日本全体でも、専門分化した専門医だけではなく、こうした役割を果たす「総合医」や「家庭医」と言われる医師が求められる時代になってきています。

民医連はもともと患者さんの立場で、地域のいろんな生活の場から患者さんを診て、いろんな問題に心えいくという志は持っています。しかしこれまでは、その技術の維持は医師それぞれの個人の努力などに任せられて

現在、生涯ずっと総合的な診療技術を保ち続けるための教育や、集団学習のシステムに積極的に取り組んでい

ます。去年から始めた家庭医療学の研修は、どんな患者さんの要望にも応えられる心と技術を持った医師を、地域の中で育てていくことへの挑戦です。

## 3 若い総合医を 地域で育てよう

小林 医師のところでは、総合的な部分と、一方で専門性も身につけなければい

く、総合的な部分と、一方で専門性も身につけなければい

く、総合的な部分と、一方で専門性も身につけなければい



まちかど何でも無料相談会。医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・弁護士・土建組合員・区議などが参加しました



呼びかける谷川智行医師

医師は、病院でも診療所でも患者さんに適切に対応することができ、入院、外来、在宅と継続的に主治医として役割を果たすことができ、患者さんにも信頼されます。大きな病院などで、地域の医療とかけ離れたところで勉強しても、そういう力は身に付きません。

### ちなつぷ & ちなつぷ 病院・診療所・友の会

#### 一流のレストラン!? 「穂の会」10周年

中野共立健康友の会

食事会「穂の会」は12月で10周年、9日に記念の食事会を開きました。ボランティアの方々を心をつくした豪華なお弁当や、参加者によるサプライズの花やデザートが一流のレストラン風。思い出話、歌、ビンゴゲーム、飯島さんのハーモニカや、榎本さんの手品で花を添えました。(野沢)



#### 2泊3日の 土肥山への旅

ぬましん健康友の会

恒例の2泊3日旅行は11月6日から西伊豆土肥温泉の旅に32人が参加。三島大社、中伊豆ワイナリー



を巡り、ホテルに着。宴会では歌や踊りにおひねりも飛びかき、最後は全員の東京音頭で盛り上がりました。2日目は、歩

#### いきいき・ふれあい 「里の秋」

城西診療所健康友の会

中野・杉並健康友の会の「芸能まつり」で、ハーモニカ「蚕糸の会」のみなさんが演奏。「里の秋」など童心に返って、会場も「いきいき・ふれあい」の輪。(染谷)



#### 新宿御苑へ 紅葉散策

かわしん健康友の会

11月30日(水)、新宿御苑へ紅葉散策。職員含め16人の会員さんたちと、ぶらりぶらりと自分たちのペースで歩きながら、休



み休み紅葉を愛でました。道中、写真やスケッチを楽しみながら、帰路につき

「自分の得意な分野を若いうちに勉強して身に付ける」ことも勧められています。たとえば、一人の医師を消化器の研修のために、1年半、他院に出向させました。今後、糖尿病や認知症、そして婦人科や小児科の研修なども予定しています。



診療所で、総合医・家庭医として、患者さんの身体のこと、生活のことをしっかりお聞きします(左・若手医師の、伊藤洪志医師)

**若い医師に魅力ある働き場**

小林 地域の人がちにとって、救急医療

に生かし、そして集団全体が総合的に高まっていくことを文化として育てていきたいと思っています。

は関心があると思います。高津 たしかに重要です。病院も、自分たちの身近の患者さんだけを受け入れてバックアップしようという立場からひとつ踏み出して、求められている地域での救急医療の役割にも、少しでも応えたいと考えています。

域や診療所に目が向き、密接に結びつき、患者さんの要望に総合的に応えることのできる研修ができる病院」こそ魅力があるのではないのでしょうか。中小病院というものは、現在どこでも、経営や医療活動の展望が持ちにくい状況が続いています。打ち破るには「人づくり」が必要だと思います。

**いのちとくらしの住まいの課題も**

小林 患者さんや友の会の方々に新年の抱負をお聞かせください。

高津 そうですね。昨年、友の会の役員研修会でお話をする機会がありました。そのなかで、孤独死やひとりぼっちのお年寄りの問題、住み続け

られるまちづくりなど住まいの問題を健友会と友の会が一緒になってすすめる必要があること、他の民医連でグループホームのような住まいづくりを実現している具体例を紹介し、健友会としても取り組みたいとの話をしました。この話が共感を呼び、共立の友の会の方がご主人と相談をして、「どういう目的なら自分の家を使ってもらいたい」との話が出たということも聞いています。中野・杉並で、小規模でも和やかに過ごせる場所をつくりたいものです。

小林 今後の健友会の取り組みが期待されますね。

高津 運営の仕方もあるんなケースが出てくると思います。自分も住

**新年のご挨拶 健康づくり・生き甲斐づくり**

中野・杉並健康友の会会長 犬山 征一



あけましておめでとございます。昨年の仲間増やし月間、ご苦労様でした。各友の会、職員と一体となって取り組み、多くのところで、年間、月間目標を突破いたしました。

私も年間を通じ、好きな卓球や囲碁のサークルを楽しみながら、仲間を増やしています。今年も健康づくり、生きがいづくりに頑張りますよ。



**新年のご挨拶 身近で元気の出る新聞に**

「健友」編集委員長 安斎 登



私達「健友」編集委員は、健康に役立つことはもちろん、読む人の心に響いてくるお話を依頼、掲載するように心がけております。

楽しい話やご意見、政治を憤る話も大歓迎です。どうぞ、ご寄稿ください。身近で元気の出る新聞になるよう一層努めていきます。

**江古田沼袋診療所 臨時診療所への移転のお知らせ**

江古田沼袋診療所は建物の老朽化に伴い、現地に建て替えることになりました。2013年春には新築の診療所が開院予定です。引き続きご支援をよろしくお願いします。

**臨時診療所 案内図**



**あなつぷ & ちなつぷ 病院・診療所・友の会**

**「いい日旅立ち」ピアノ独奏**



「芸能まつり」に、木村なぎさ看護師がピアノを演奏。「いい日旅立ち」の音色が会場いっぱい響きました。診療所でピアノの音がきこえたら：練習中かも。(尾藤)

**3人合わせて269歳**



毎月定例の食事会。楽しいね、おいしいねとおしゃべりも弾み、なお一層食事が美味しくなります。会長自らが釣り上げた

**平和の祈りをこめた「沖繩の歌」**

「芸能まつり」で西荻在宅ケアセンター 窪田麻美さんが、平和の祈りをこめた「沖繩の歌」を独唱。職員・友の会の絆が、平和への大きな力になるように会場に響き渡りました。(吉田)



**秋の日帰りバス旅行**



11月24日(木)、群馬県方面へ日帰りバス旅行。37人が参加しました。沼田で「リンゴ狩り」と甘いリンゴの食べ放題、昼食は郷土料理を味わい、川場田園プラザで買い物。秋の味覚、自然の恵みを感じながら、のんびり楽しいひとときでした。(犬山)

**はじめての企画 紅葉ランチツアー**



みんなで気軽にランチとおしゃべりを楽しむ企画第一弾。急に寒くなった12月1日、17人が福祉タクシーも使い、大田黒公園、郷土資料館とまわり、阿佐ヶ谷の「竹八」で美味しい和食に大満足。「毎月やって」と大好評でした。(松本)

大田黒公園

# 「いつでも元気」 で購読ください。

取り扱いは、各診療所受付にてお受けいたします。

あなたと良医をつなぐ月刊誌

**MIN-IREN** **いつでも元気** 好評発売中

2012年1月号 380円

巻頭エッセイ／取り返せないことを取り返す 大江健三郎

元気スペシャル 新春座談会

**生きることを支える** 東日本大震災の救援活動から

特集1 **いのちにやさしい電力を** 高知/ドイツ

特集2 **虫歯予防** 安心して治療受けられる保険制度を 濱野陽子

食と健康 読者のハガキから お正月に食べる郷土料理(富城)

発行=徳保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656(代表) FAX 03(5842)5657



仮設住宅前でご両親と医局の医師ら



お母さん床屋 (野澤愛子)

仮設住宅に住む山本松蔵(86歳)、セツ(85歳)ご夫妻。山本英司副院長のご両親。盛岡に住むお姉様が撮影。腰が曲がり杖をついているお二人ですが、大震災の時はお父様の運転で避難し助かりました。「若い人達が亡くなり、年寄りが生き延びた。生きていていいのでしょうか?」と問いかけたお母様。

謙虚で慎ま  
しやかなお  
二人が思い  
出されま  
す。

## 日本大震災で被災した 岩手県宮古市田老地区へ、 健友会の医師らで訪問

宮古市田老地区出身の中野共立病院・山本英司副院長は、震災直後から故郷に入り支援活動! その後も復興支援の

田老一中生デザインのTシャツ企画へも参加応援してきました。しんぶん「健友」9月号で紹介した、ブルーのTシャツの

背中の言葉「果てしなき大海原へ我等進まん あきらめずひるまず 手をつなぎ 心を合わせ 未来への道作るべし」と。今回、健友会の医師たちが訪問、実家を津波で流され仮設住宅暮らしのご両親にもお会いできました。(中西 龍)

## 伝統の友の会まつり ますますレベルアップ

### 中野・杉並健康友の会まつり

中野・杉並健康友の会は第16回友の会まつりとして、「作品展」を11月9日～11日、なかのZERO美術ギャラリーで、「芸能まつり」を11月16日、なかの小劇場で開催しました。作品展は、昨年を大幅に超え、全友の会から絵画、写真、書道、手芸、からくり箱、風景など113点にも及び、入場者は延べ330人を超えました。芸能まつりは、入場者が260人を超え、29演目と、各健康友の会と職員の多芸ぶりが披露されました。



絵画「ゆうやけこやけ」(かわしん健康友の会)



「からくり箱」(ぬましん健康友の会) 会場で唯一触れる作品。「あら不思議…」とココロまわして大人気



書の展示に見入る参加者



「フラワーアレンジメント」の出展準備の様子(共立健康友の会)



メインゲストの元職員・高原照夫さん。歌と語りで会場が一瞬になりました



コール・フロイデ弥生の合唱(かわしん健康友の会)



「コル・テンボ薬師の家」(認知症の方のグループホーム)のみなさん。4年前からの参加、1年かけて練習を重ね、今年は新曲に挑戦。花束を贈られ涙する参加者の方も…。

## 薬剤師募集中!

薬剤師さんをご紹介ください。

薬剤師も地域へ、在宅医療を旺盛に展開

株式会社 東京医療問題研究所 本社事務局電話 3389-6911  
~どこの病院・診療所・医院の処方箋でもお受けいたします~  
いつでもお気軽にご相談ください。

- 青葉調剤薬局 中野区中野 5-47-10 3389-7110
- ちひろ薬局 中野区沼袋 2-30-7 3387-3426
- わかば薬局 中野区弥生町 3-27-11 3372-5664
- すみれ薬局 中野区東中野 3-17-17 3362-2510
- 桃園薬局 中野区中野 3-3-2 3384-5527
- 西荻みなみ薬局 杉並区西荻南 1-14-19 3335-7200
- やまと花公園薬局 中野区大和町 1-57-4 3336-3775
- なごみ薬局 杉並区天沼 3-28-8 5347-0671
- 中野在宅ケア 中野区中野 5-46-10 5318-2265